

登米アートトリエンナーレ2016 幾何学構成アートの祭典

主催代表あいさつ

宮城県 登米市
市長 布施 孝尚

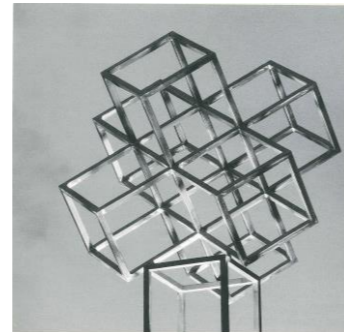
本市出身のフランス在住で世界的に活躍されている造形作家 佐藤達氏の作品をコレクションしている、幾何学構成作品のミュージアムとしては、国内でも希少な存在である「サトル・サトウ・アートミュージアム」が開館して10年目を迎えました。

この度、「登米アートトリエンナーレ2016」と題し、幾何学構成アートの祭典を開催いたします。

多くの皆様に幾何学構成アートの魅力、その空間を存分に楽しんでいただきますよう、国内外の著名なアーティストによる野外作品の制作・展示などのほか、心を打つ数々の力作を通して、アートがもつ魅力や力を体感していただければ幸いです。

「あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち とめ」の実現に向けて、歩みを続けている本市へ、多くの皆様がお越しくださいますよう心から願っております。

世界各国で活躍するサトル・サトウを育んだ田園都市、登米市において、「登米アートトリエンナーレ2016『幾何学構成アートの祭典』」が開催されます。丸、三角、四角、直線を基本とする「幾何学構成アート」に傾向を絞った、全国でも類を見ない現代アートの祭典で、初めての方にも楽しんでいただける様、取り組んでまいります。



作・Eric Koch



ファミリーワークショップにて
(幾何学と風と遊ぶ)



作・登米総合産業高等学校 美術部 生徒
(H13cm×W16cm×D7cm)

◇幾何学構成アートとは◇

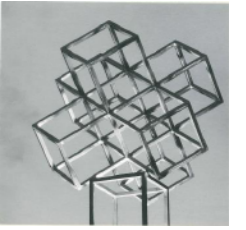
宇宙や大自然、また身体の宇宙は実は見事に幾何学構成されています。現存する世界中の文化遺産も身体的基本構造から生まれてきたといわれています。例えば、ギザのピラミッド、ミロのヴィーナスの構成、イタリア・ルネサンスのレオナルド・ダ・ヴィンチや、ミケランジェロ、ドイツのアルブレド・デューラーの絵画を見ても、絵画の下絵に構成されている空間は黄金比による数学的基本に対する情熱的探求だったことがわかると思います。私たちがまた、神社、仏閣、庭園、茶室、家具に至るまで、幾何学構成的比例空間に身を置いているのです。それまで、絵画の下絵に必要な基本構成や建築の基本構造といったまさに従来の舞台裏方が、20世紀と共に主役に具現されたのが、幾何学構成絵画かもしれません。

登米アートトリエンナーレ2016

野外造形招待作家

エリック・コッシュ Eric Koch

■1933年デンマーク生まれ。
1955年ニューヨークのハンス・ホフマンの助手をしながら、アメリカ抽象絵画を学ぶ。
1958年コペンハーゲンにアトリエを構え、ヨーロッパを旅する。
1961年サン・フランシスコにアトリエを持ち、その後、スイスなどにアトリエを持ち
1970年パリにアトリエを持つ。1983年南仏に最終的に住居とアトリエを持つ。
現在も、アメリカはじめ、ヨーロッパを中心に制作・発表を続けている。



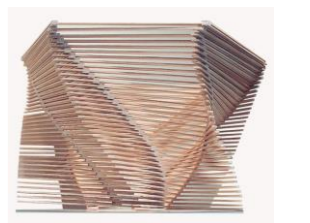
セバスチャン・ザネロ Sébastien Zanello

■1972年生まれ。国籍・フランス。
国立パリ大学第八・造形美術科卒。
パリ招待サロン、レアリティ・ヌーヴェルに連続参加。
個展、グループ展他に、野外モニュメント、インスタレーションを数多く発表している。



越野 成朗 Shigeaki Koshino

■1961年、宇都宮市生まれ。1980年から85年迄パリに留学、幾何学構成アートを学ぶ。
パリの招待展、コンパレゾン、レアリティ・ヌーヴェル、グランジュヌヌオーージュドウイに出品。パリNAC展受賞。パリにて個展開催。
1985年帰国後、ギャラリーK(東京)、栃木県立美術館でグループ展。
ギャラリー青城(仙台)、登米アートトリエンナーレ等で展示。



高木 修 Shu Takagi

■1944年生まれ。立体造形を中心とした制作で活躍。
1970年代以降、高松次郎の主催した「塾」に学ぶと同時に哲学者の市川浩氏にも師事。
編集者から造形表現の世界へ転身した経歴を持つ。
1984年「メタファーとシンボル」東京国立近代美術館。2002年「未完の世紀」東京国立近代美術館。2004年「ディスタンス」2016年「特異な空間へ」栃木県立美術館。



沼田 直英 Chokuei Numata

■1954年、北海道生まれ、埼玉県在住。1980年東洋美術学校第1回パリアトリエ留学派遣個展、1974年より櫛画廊(東京)、ギャラリーK(東京)、ときわ画廊(東京)、他。グループ展、1984年よりコンパレゾン展、国際野外の表現展、表層の冒険者たち、登米アートトリエンナーレ2010展他。



室内展示招待作家(平面・レリーフ)

市川 和英 Kazuhide Ichikawa	牛腸 達夫 Tatuo Gocho	中川 猛 Takeshi Nakagawa	百瀬 寿 Hisashi Momose
市野 泰通 Yasumichi Ichino	小鶴 幸一 Koichi Kozuru	前田 一澄 Kazumi Maeda	吉本 直貴 Naoki Yoshimoto
北川 順一郎 Junichiro Kitagawa	清水 一枝 Kazue Shimizu	三上 秀夫 Hideo Mikami	

推薦作家(野外作品制作)

上原 啓五 Keigo Uehara
佐藤 朱理 Akari Sato
関本 欣哉 Kinya Sekimoto

Satoru Sato Art Museum の紹介

宮城県登米市にあるサトル・サトウ・アート・ミュージアムは同市出身の造形作家、佐藤達氏の作品は350点、140人を超える西欧作家からは、250点の寄贈作品を含む幾何学構成主義を中心としたミュージアムです。
ピエト・モンドリアン、ソニア・ドローネなどに代表されるジオメトリック・アート(幾何学構成芸術)今なおヨーロッパ全土で人々から絶大な支持を得ており、北、南米にも及んでいます。
日本において、幾何学構成芸術をこれほどの規模で収集し、展示しているのは、宮城県登米市にあります、サトル・サトウ・アート・ミュージアムが唯一のミュージアムとなります。